

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西淀川区
学 校 名	大阪市立佃西小学校
学校長名	小西 浩之

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

#### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

### 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・佃西小学校では、第6学年 87名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では、平均正答率が64%で大阪市平均より-2.0%、全国平均より-3.7%だった。「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」に関しては、大阪市平均を上回ったが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」は下回った。  
算数科では、平均正答率が60%で大阪市平均より-2.0%、全国平均より-3.4%だった。「数と計算」に関しては、大阪市平均を上回ったが、その他の項目は下回った。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕  
学習指導要領の内容別では、6項目中3項目が大阪市平均を上回り、うち2項目は全国平均を上回った。昨年度課題となった「書くこと」の項目は大阪市平均を上回った。  
学力推進事業の一環として漢字能力検定試験に向けた取り組みを行っており、基礎学力の定着につながっていると考えられる。  
〔算数〕  
学習指導要領の内容別では、4項目中1項目が大阪市平均を上回った。大阪市平均を下回った項目のうち、「図形」「変化と関係」の2項目については特に力をつける必要があることがわかった。  
これからも学力向上支援チーム事業等を活用して、教員がよりよい算数科の授業づくりを実践できるようにする。

質問調査より

自己肯定感について、昨年度に続き良い分析結果となった。「自分には、よいところがあると思う」という質問には8割以上、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」という質問には9割以上の児童が肯定的に回答している。学力向上支援チーム事業は児童の自己肯定感を高めることを目的の一つとしているため、その成果の表れだと考えられる。  
一方、家庭での学習時間については、改善の必要がある分析結果となった。「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等の回答は、全国平均を大きく下回った。昨年度も同様の結果であり、家庭学習の実施について協力を仰いでいく必要がある。

## 今後の取組(アクションプラン)

今年度より国語科を校内の研究科目に設定し、相手に伝わるように自分の思いや考えを書く力を育成することに力を注いでいる。授業観察や研修会を通して、指導者一人ひとりの授業力向上に取り組むことで、児童が「わかる・できる」授業を実践できるようにする。  
家庭学習に関しては、昨年度末に家庭生活の基本的な約束「Home 10」について見直したり、強調週間実施前に呼びかけたりするなどの工夫をしたが、改善されていない結果となった。家庭学習の重要性について引き続き説明し、呼びかけ、児童が予習・復習をする姿勢が身につくようにする。  
全学年で取り入れている教科担任制や検定試験等は今後も引き続き取り組み、自己肯定感を高めるとともに基礎・基本の定着をめざす。